

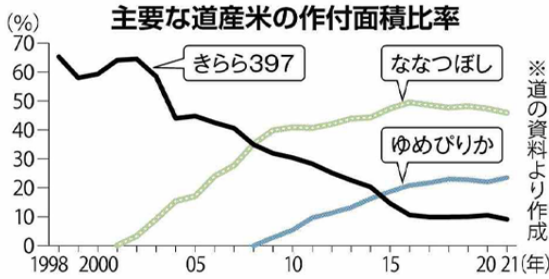


年 組 名前

道新ワークシート

「きらら397」後継転換に力

業務用米「空育195号」



道は外食など業務用米としての利用が多い「きらら397」について後継品種への転換に取り組み、収穫量が多く病気に強い新品種「空育195号」を7日に普及を後押しする「優良品種」に認定したことを受け、今後は農業団体や農家に世代交代を呼びかける。2024年度に本格栽培を始め、将来的に、きらら397などと同ほぼ同水準となる道産米作付面積の約8%で生産することを目指す。空育195号は、収穫量がきらら397より約2割多く、菌で穂が枯れるいもち病への抵抗力が強い。道立総合研究機構中央農業試験場水田農業部（右見沢市）が14年から開発してきた。

道呼びかけ 収量増 病気に強く

外食や弁当など中食で使う業務

用米はコメ消費の約3割を占める。きらら397は価格が手ごろで食味が良く、かつては牛丼チェーン「吉野家」で採用された実績が広まり、道外でも知名度を高めた。道は、きらら397より低コスト生産が見込める空育195号も、市場ニーズに応えられると判断。現在、きらら397と、同じく業務用での使用が多い「そらゆき」は計約9千畝で栽培されているが、これを空育195号に順次置き換え、同水準の作付面積を維持したい考えだ。

優良品種は、道が条例に基づき種子の元になる原種や原原種を生産する。きらら397も優良品種としての認定が維持されるため、実際に空育195号を導入するかは、農家が育てやすさや採算性を加味して判断する。空育195号の一般的に使われる名称は、道総研や流通業者などが協議し、6月をめどに決める。

道産米はかつて「やっかいどう米」とやゆされたが、1988年に優良品種となったきらら397の登場で見直され、2000年前後には道内の作付面積に占める比率は約6割に上った。その後「ななつぼし」や「ゆめぴりか」などと取引価格が高い良食味米の人氣が高まり、近年は1割前後に落ち込んでいる。（長谷川裕紀）

2023年3月8日（水）朝刊 全道版 2ページ（記事は再編集しています）

① 記事中のグラフから読み取れることを2つ書きましょう。

例) 2000年は、道産米の作付面積の約60%が「きらら 397」という品種だった。

② 2014年から農業試験場で開発が進められてきた「食育 195 号」は、「きらら 397」に比べてどのような点が優れていますか。